

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成25年度)

2. 分野等別状況 (1)国際戦略総合特区(5/7)

	評価区分(*1)	総合評価 (IとIIの 平均値に IIIを加味)	I 目標に向けた取組の進捗に関する評価	II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	III 現地調査時の指摘事項及び対応状況等(*2)	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
つくば国際戦略総合特区 (茨城県等)	正	B 4.3	B 4.2 進捗度 ・産学官連携による新規プロジェクトの創出数 114% ・次世代がん治療(BNCT)に関連する競争的資金獲得件数及び特許出願件数 60% 等	B 3.5 規制の特例等 ・農地法第5条農地転用に係る措置 等 財政支援等 ・国立大学法人運営交付金 等 地域独自の取組 ・次世代がん治療(BNCT)共同研究拠点の整備 等	+0.43	<p>・全体としては概ね順調に進展(※1)している。研究が重視されるプロジェクトであり、今後、実用化や普及の面で成果が現れ、国際的にも高く評価される成果の出ることが期待される。</p> <p>・個別の事業については、事業化に向けて克服すべき課題(※2)もある。</p> <p>(※1)各指標の進捗度(平成25年度)をみると、①産学官連携による新規プロジェクトの創出数(進捗度114%)、②次世代がん治療(BNCT)に関連する競争的資金獲得件数及び特許出願件数(進捗度60%)、③生活支援ロボットの安全認証数(進捗度100%)、④藻類産生炭化水素オイルの1ha当たりの年間生産量(進捗度71%)、⑤TIA-nanoにおける産学官連携による累積事業規模(進捗度109%)となっている。</p> <p>(※2)今後の取組みの方向性として、専門家から、次世代がん治療(BNCT)については、研究開発の要素が多岐にわたり、人材育成も同時に必要となるため、統合的な管理運営体制が必要となるとの指摘があった。また、生活支援ロボットについては、市場への投入を考慮し、介護保険制度等への働きかけが求められるのではないかと指摘があった。</p>

◆評価書は[こちら](#)

◆評価結果は[こちら](#)

*1)「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。 *2)「III」については、「地方公共団体による総合評価の状況」についても評価している。